怪談

伊藤貴晴　作

【登場人物】

女１

女２

女３

女４

女１・女２・女３が座っている。

女１ 番町皿屋敷。これは江戸時代のお話です。ある偉い人のお屋敷に勤めている、お菊という名前の下女がおりました。ある日、お菊は、主人が大事にしてた高価なお皿の十枚のうち一枚を割ってしまいました。お菊はたいそう怒られました。お菊は罰として中指を切り落とされ、蔵の中に閉じ込められてしまいました。しかしお菊は、夜中に蔵を抜け出し、裏の古井戸に身を投げて死んでしまったそうです。それから、奇妙なことが起こるようになりました。夜になると井戸の底から「一枚……二枚……」と、皿を数える女の声が聞こえるようになったそうです。そして、その後、主人の子供が生まれたのですが、中指がなかったという話です。家は没落し、空き家になってからも、夜になると井戸から声が聞こえるという話です。「一枚……二枚……三枚……四枚……五枚……六枚……七枚……八枚……九枚……やっぱり一枚足りない」〔※１〕

女２ こわーい

女３ 怖いか？

女４ 怖いな

女２ 中指切り落とされたんだって。痛そう

女３ そんなの大したことじゃないよ

女４ そうそう、落とし前をつけただけ

女２ 自殺したんだって。かわいそう

女３ そんなの、お皿を割ったのが悪いんでしょ

女４ 割るなって言われた皿を割っちゃうって、おっちょこちょいって言うか、フラグだよね

女２ それで幽霊になっちゃうんでしょ

女３ 仕方ないでしょ。怨念が残ってるんだから

女４ 蔵に閉じ込められてたのに夜中に抜け出すって、セキュリティがザルなんじゃない？

女１ １人論点が違う奴がいる

女２ 怖いね、怪談

女３ 全然怖くない

女１ そんなに怖かった？

女４ 怖かった

女３ 女４、怖がってないだろ

女１ 有名な話だよ。番町皿屋敷

女２ そうなの？

女３ 何で知らないの？

女２ だって知らないもん。そっか、江戸時代って怖いんだね

女１ 別に江戸時代が怖いわけじゃないと思うけど

女３ 昔は妖怪とかいっぱいいたんでしょ。そんで陰陽師とかが戦ったんでしょ

女１ 女３、よく知ってるね

女３ 別に。一般常識でしょ

女４ 女３、そういうの好きなの？

女３ 普通だよ

女２ やっぱり怖いね、江戸時代

女４ 気を付けなよ

女１ 何に？

女２ 女１、今の話の題名、何だっけ？

女１ 番町皿屋敷

女２ 番町皿屋敷

女４ 番長ってジャイアンみたいな奴でしょ〔※２〕

女２ え、そうなの？

女３ そうそう、その町を仕切ってるボスってことでしょ

女１ 違うよ

女２ あ、で、皿屋敷っていう名前なんだ

女３ そういうこと

女１ 違うよ

女２と女３の寸劇が始まる。

女３ 俺がこの町を仕切ってる皿屋敷ってもんだ

女１ 何か始まった

女２ 今日からここに勤めさせていただきます、お菊と申します

女１ 女２もやるの？

女３ 俺が大事にしてる皿を割りやがったらただじゃおかねえからな

女２ 分かりました。あっ、パリンパリンパリン。あーれー

女３ おい、てめえ、何してやがる

女１ 今、割れたの一枚じゃないよね？

女２ お皿を十枚全部割ってしまいました

女３ ふざけるなよ

女２ おっちょこちょいなもので

女１ おっちょこちょいにも程があるだろ

女３ 罰として中指を切り落としてやる

女２ やめてください、あー

女３ てめえは明日ぶっ殺してやる。覚悟しとけ

女２ つらい。死のう。えい

寸劇、終わり。

女２ お菊、かわいそう

女３ そうだな

女１ 今の寸劇は何なの？

女２ で、井戸から這い上がってくるあれになっちゃうんでしょ？

女１ それ、貞子ね〔※３〕

女４ 貞子の決め台詞って何だっけ？

女１ そんなのあったっけ？

女３ ないよ

女２ 「真実はいつもひとつ」

女１ それコナンね〔※４〕

女４ 「お前を殺す」

女１ 勝手に台詞作るなよ

女２ いやあ、怖かった

女３ 全然怖くない

女１ じゃあ次。女２の番

女２ 私？　じゃあ話すね。えっと、これは演劇部の友達から聞いた話なんだけど、今年、自主公演やったんだって。一生懸命宣伝してたから、お客さん、たくさん来るといいねって話してたの。でも、公演当日、その日は朝から天気が悪くて、何か嫌な予感がするなって思ってたんだって。そういう予感って当たるんだよね。何かおかしいなって思いながら準備してたら、お客さんが一人も来なかったんだって

女３ 怖い

女２ 怖いでしょ

女４ それは怖いね

女１ え、ちょっと待って

女２ 何？

女１ 怖い話ってそういうのじゃないでしょ

女２ え？　何が？

女１ だってそれ怖い話じゃないよ

女２ 怖いでしょ。お客さん一人も来なかったら

女１ そりゃ怖いけど

女２ 怖いよね？

女３ うん、それは怖い

女４ マジでヤバい

女１ 怖いけど、怪談じゃないでしょ

女２ 怪談？

女１ お化けとか心霊現象とかそういう話

女２ あ、そういう話がいいの？

女１ そうだよ

女２ 言ってくれなきゃ分かんないよ

女１ 分かれよ。他にないの？

女２ じゃあ、ツイッターの裏アカの鍵がいつの間にか外れてて、クラスのみんなに見られた演劇部の子の話は？

女３ それも怖い

女４ 死ねる

女１ それも違う

女２ 妖怪鍵外しっていうのがいて

女１ いないでしょ

女２ じゃあ、ラインでしてた話を誰にも言わないでって言ったのにスクショされてクラスのみんなに拡散された演劇部の子の話は？

女３ それはもうあるあるだよね

女４ 友情ってそんなもんだよね

女３ ていうかその演劇部の子すごいな

女４ トラブルメーカーなの？

女２ 本人は妖怪のせいって言ってる

女３ 現実逃避甚だしいな

女４ じゃあもうその子の話にしようよ

女１ しないよ

女２ 何で？

女１ だって怪談じゃないもん

女２ 妖怪の仕業なんだよ

女４ 妖怪っているんだよ

女１ いないよ。もういいよ。次、女３

女３ えー、私？　私、怖い話って興味ないから、あんまり知らないんだけど

女２ そうなの？

女１ 有名なのでもいいよ

女３ じゃあメリーさんの話ね。ある女の子が大事にしてたメリーさんっていう人形があったんだけど、お母さんが捨てちゃったのね。その子は人形を捨てられて悲しかったんだけど、仕方ないから諦めてたの。ある日、その子が一人で留守番してたら、電話がかかってきたの。「もしもし」「私、メリーさん。今、ゴミ捨て場にいるの」。いたずらかなって思ったんだけど、何か不気味なんだよね。しばらくしたら、また電話がかかってきたの。「もしもし」「私、メリーさん。今、あなたの家の近くにいるの」。そう言ってすぐ電話は切れて。でもまたかかってきて。「もしもし」「私、メリーさん。今、あなたの家の前にいるの」。怖くなって玄関の鍵を閉めて、部屋でじっとしてたらまた電話がかかってきて、「もしもし」「私、メリーさん」

女４ 「今、あなたの後ろにいるの」〔※５〕

女３ ぎゃー

女２ ぎゃー

女３ 何すんの？

女４ だってそういう話でしょ

女３ 私にやらなくてもいいの

女２ あーびっくりした

女１ 女３、大丈夫？

女３ 何が？

女１ え、だって、すごい怖がってたから

女３ 怖がってた？　誰が？

女１ 女３が

女３ 女１、何言ってるの？　私は怖がってないよ

女１ 怖がってたよ

女３ 怖がってないよ

女１ 怖がってたよ。ねえ

女２ 怖がってた

女４ 怖がってた

女３ 怖がってない。私、怖い話とか全然怖がらないタイプだし、そういう話全然興味ないし

女１ 何必死になってるの？

女３ 必死じゃないよ

女１ 必死じゃん

女３ 必死じゃないって

女１ 信じてないの？　「テケテケ」とか〔※６〕

女３ 「テケテケ」は北海道の話だからこの辺には出ません。岐阜県に出るのは「口裂け女」です〔※７〕

女１ そんなことは聞いてない

女４ 赤い紙がほしい？　青い紙がほしい？〔※８〕

女３ 赤い紙と答えると血まみれになって殺されて、青い紙と答えると全身の血を抜かれて殺されるから、何もいらないと答えるのが正解です

女２ よく知ってるね

女３ この話には諸説あります

女１ 本当は怖い話好きなんでしょ

女３ うん

女１ 本当は怖がりなんでしょ

女３ うん。あー怖かった

女１ じゃあ次。女４

女４ 私か

女３ まだやるの？　もうやめようよ

女１ 女４、ものすごい怖い話して

女３ やめて

女４ 分かった。じゃあ、「まんじゅうこわい」っていう話があるんだけど〔※９〕

女１ 待て待て待て待て

女４ 何？

女１ 落語でしょ？

女４ そうだよ

女１ 怖い話じゃないじゃん

女２ え、何？　どんな話？

女４ 昔、若い女たちが怖いものについて話していました

寸劇が始まる。

女３ あなた達、怖いものってある？

女２ 私はね、お化けが怖い

女３ ああ、そうだね。怖いね

女１ 私はね、雷が怖い

女３ ああ、そうだね。怖いね

女４ 私は先端恐怖症だから、ボールペンの先なんかをこうやって向けられるのが怖い

女３ それはちょっと共感しづらいかな

女２ 女３は何が怖いの？

女３ 私？　私はね、自分の才能が怖い

間。

女３ 何か言ってよ

女１ 女３の根拠のない自信が怖い

女２ あ、地震、怖いよね。地震、雷、火事、おやじ

女１ そっちじゃないんだけど

女４ 私、まだ怖いものあるよ

女３ 何？

女４ まんじゅう

女３ まんじゅう？

女４ うん、まんじゅう

女２ まんじゅうって、これ？

女４ うわ、まんじゅうだ

女１ ずいぶんたくさんあるね

女４ こっちに近付けないで

女３ これが怖いの？

女４ やめて、お願いだから

女３ 怖がってるね

女２ 大丈夫だよ。ほら

女４ やめてよ。まんじゅうはダメなの

女１ おもしろいね

女３ おもしろい。ほら

女４ うわあ

女１と女３は女４にまんじゅうを近付ける。

女２ ちょっと、かわいそうだよ

女３ 大丈夫だよ。まんじゅうだよ。ほらほら

女４ うわあ、まんじゅうだ

女１ 食わせろ

女３ ほら、食えよ

女４ ああ、まんじゅうが口の中に。ひどい。もぐもぐ。うまい

女１ ん？

女３ ほらほらほらほら

女４ うわあ、もっと食べさせて。もぐもぐ

女１ ちょっと待て

女３ もっと食え

女２ かわいそうだよ。女４、大丈夫？

女４ こんなに食べられるかな。もぐもぐ

女１ 待て

女３ 何？

女１ こいつ、まんじゅうが食べたくてこんなこと言ってるんじゃないの？

女３ え？

女２ そうなの？

女４ バレたか。次は熱いお茶が怖い

女１ いい加減にしろ。どうもありがとうございました

寸劇、終わり。

女２ 怖くない

女４ でしょ

女１ 何で？

女４ 怖い話が嫌だって言うから

女３ おもしろかった

女２ おもしろかったね

女１ ダメだよ。怖い話じゃないと

女４ じゃあ「時そば」っていう話もあるんだけど〔※10〕

女１ それも落語でしょ

女４ お皿を数える貞子っていう妖怪がいて

女１ それ、さっきの私の話でしょ

寸劇が始まる。

女２ 一枚、二枚、三枚、四枚、五枚、六枚、七枚、八枚、九枚。やっぱり一枚足りない

女４ あれ、貞子。どうしたの？

女２ あ、ジャイアン。実はお皿が足りなくて

女４ え、そうなの？　数えてみてよ

女２ 一、二、三、四、五、六、七、八、九。ほら、一枚足りない

女４ もう一回数えてみて

女２ 何回数えたって一緒だよ

女４ いいから

女２ 一、二、三、四、五、六

女４ 今何時？

女２ 七時。八、九、十。あった

寸劇、終わり。

女４ こうして貞子は成仏したのでした。めでたしめでたし

女１ めでたいか？

女２ いい話だった

女３ そうだね

女１ メチャクチャだよ

女２ 次はどんな話？

女４ えっと、次は

女１ 落語はもういい

女４ じゃあ、トイレの貞子さん〔※11〕

女２ 女４、貞子好きだね

女４ 口裂け貞子さん

女１ それ違う

女４ 阿部貞子〔※12〕

女１ もう何が何だか分からない

女３ 私、貞子。あなたの隣にいるの

女１ それ、メリーさんでしょ

女２ メリーさんって何？

女３ 羊を捜す女の子

女１ 違うよ

女２ 羊が一匹、羊が二匹

女３ 眠くなってくるね

女２ 三匹、四匹、五匹、六匹、七匹、八匹、九匹、やっぱり一匹足りない

女１ 怪談かよ

女２ 「今何時？」って聞くと、羊が一匹増えるって聞いたんだけど

女１ そっちの方が怪談みたいだよね

女３ 女４が寝てる

女４ はっ

女３ あ、起きた

女４ どら焼き食べたいな

女１ ドラえもんかよ〔※13〕

女４ どら焼きが嫌いって言うと、どら焼きを山ほど食べさせてくれるって聞いたんだけど

女１ 食べさせてくれません

女３ 怖い話を百すると本物のお化けに会えるって聞いたんだけど

女１ それが今、私達がやってる奴

女２ あー

女４ 百物語ね

女１ ほら、次の話するよ

女達は話し続ける。

終わり。

【参考】

※１ 「番町皿屋敷」は江戸時代の怪談。

※２ 「ジャイアン」は漫画「ドラえもん」の登場人物。

※３ 「貞子」は鈴木光司の小説およびその映像化作品「リング」シリーズに登場する架空の人物。

※４ 「コナン」は漫画「名探偵コナン」の登場人物。

※５ 「メリーさんの電話」は日本の都市伝説。

※６ 「テケテケ」は日本の都市伝説。

※７ 「口裂け女」は日本の都市伝説。

※８ 「赤い紙、青い紙」は日本の都市伝説。

※９ 「まんじゅうこわい」は古典落語の演目のひとつ。

※10 「時そば」は古典落語の演目のひとつ。

※11 「トイレの花子さん」は日本の都市伝説。

※12 「阿部定」は日本の芸妓、娼妓。阿部定事件の犯人として知られる。

※13 「ドラえもん」は漫画「ドラえもん」の登場人物。